



2010 8耐 HEADLINE

世界トップライダーと日本人ライダー
海外組が参戦決定!!

スーパーバイク勢では、ジョナサン・レイ、加賀山就臣、清成龍一(予定)!!

MotoGP世界選手権からはMoto2の高橋裕紀(予定)!!

8耐の頂点...それは世界中のライダーが狙う栄冠。

これまで、その時代の世界最速と称された多くのトップライダー達は、その称号をより確固たるものにすべく、1年に1度しか開催されない世界オールスター戦とも言える8耐に挑み、その頂点を掴み取った。

今年はワールドスーパーバイク参戦中のHondaの若きエース、ジョナサン・レイが2度目の8耐でその栄冠に挑む。また、海外で活躍する日本人ライダーの参戦も予定されている。現役最多、8耐2勝の清成龍一が3勝目を狙って参戦を予定しているほか、ヨシムラに27年ぶりの勝利をもたらした加賀山就臣も自身2勝目、そしてヨシムラの連覇をかけ、早々に参戦を決めた。

さらに、MotoGP世界選手権からは、Moto2クラスに参戦中の高橋裕紀の8耐参戦が予定されており、近年にない華やかなメンバーで8耐が彩られることになりそうだ。



ジョナサン・レイ
Jonathan Rea

- 出身:イギリス
- 生年月日:1987年2月2日
- 2009 スーパーバイク世界選手権 5位(2勝)
- 2008 スーパースポーツ世界選手権 2位
鈴鹿8耐 リタイア
- 2007 英国スーパーバイク選手権 2位
"Road to 8hours" 鈴鹿300km 優勝
鈴鹿8耐 リザーブライダー
- 2006 英国スーパーバイク選手権 4位
- 2005 英国スーパーバイク選手権 16位



“バイクファン”と
“これからのバイクファン”のために、
8耐だからできるキャンペーン・イベント
が今年はさらに盛り上がる!!

①無料キャンペーンを継続!!

ファミリー・若者にもっとバイク体験を!2輪を盛り上げよう!をテーマに2つの無料キャンペーン『ヤング割0円キャンペーン』と『子どもと一緒に!キャンペーン』を継続。

②グラウンドスタンド(V席)の魅力が大幅UP!!

8耐の魅力である「感動!」、「会場の一体感」をもっと多くの方に体験いただけるように、グラウンドスタンドV席がさらに魅力溢れるエリアに進化。『指定席料金の値下げ』、『特製8耐応援マフラータオルのプレゼント』、『V2席はコカ・コーラ製品が8時間飲み放題』という3つの大きな魅力でV席での観戦がさらに充実。



③MOTOMAXが進化“バイクに触れる、乗る”体験イベント
が増える!!

STEC(交通教育センター)は参加・体験型会場へと大きく進化し、一大バイク体験会場として展開、インストラクターによるアドバイスなどもあり、初心者や免許をこれから取得する人も楽しめる。

④子ども・ファミリーイベントを充実

スタート進行での親子バイクパレード参加、ファミリーキャンプ、キッズオアシス、環境学習プログラム開催。将来のバイクファンを育成! 8耐が夏休みイベントとして展開。

⑤女性にも“もっと8tai! もっとBike!”

女性に優しい観戦環境、女性のご要望にお答えするお得なサブイベントをさらに充実することで、ファミリーやカップルが楽しく観戦できる8耐へと進化。



パウダールーム



▶▶▶▶▶ RACE HIGHLIGHT.1

世界耐久選手権のなかでもひと際異彩を放つ “コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース



33年の歴史 変わらないハイスピードバトル

今年で33回目を迎える“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース。その名の通り、8時間にわたる長丁場のレースで、今年はQTEL FIM世界耐久選手権シリーズ第3戦としての開催となる。7月25日(日)午前11時30分にスタートし、夕闇に包まれる午後7時30分にチェッカーが振り下ろされる。

ライダーは、1チーム2人または3人の登録制。基本的な戦術は、1人のライダーが1時間走行し、順次ライダー交替が繰り返される。1チーム2人の場合は、1人のライダーは4回走行することになる。ライダーの多くは、1回目の走行時は緊張により疲労は感じないが、2回目、3回目と走行を重ねるにつれて、疲労度が増していくと語る。まして真夏の太陽が容赦なく照りつけている状態であれば、その疲労は想像を絶する。

そしてこの8耐の大きな特徴なのが、ラップタイムの速さだ。耐久レースでは、いかに安定したタイムで周回を重ねるかが重要なポイントとなる。だが、この8耐では、スプリントレースなみの速さと安定が求められる。耐久レースでの常識を覆すハイスピードバトル。そう、これがスプリント耐久と呼ばれるゆえんであり、同時に8耐の苛酷さでもある。



2009年鈴鹿8耐

極限の緊張から解き放たれたときに 訪れる至福の感動

スタート後、順風満帆なときもあれば、自らのミスや他車のアクシデントに巻き込まれて窮地に陥ることがある。波に乗ったライダーの走行は、ただそれだけで観る者を魅了する。そしてアクシデントをリカバリーする姿もまた輝いている。だからこそ、8時間を戦い終えたライダーやチームは、これ以上ない達成感に包まれ、その姿にファンは感動を覚える。

勝つための戦略として、ラップタイム、ピット作業時間、アウトラップ、こうしたさまざまな要素を数値に置き換えて計算すれば、自然と最多周回数が割り出されるし、優勝するためにはどうすればいいのかも分かってくる。しかし、真夏の8時間レースでは、何が起きるか分からない。そこが8耐の面白いところ。突発的な出来事に、ライダーやチームがどのように対処していくか。ここが見どころになる。優勝を目指すために、各チームの監督は、考えられる最高のタイムを足していき、完走周回数を想定する。だが、8耐本番では、不測の事態に対処する引き算が必要になってくるのだ。

ライダーに関しては、我慢が要求される。2人または3人のライダーが、1台のマシンを乗り継いで8時間先のゴールを目指すわけだが、ライダーのマシン仕様の好みは同一ということはありません。優勝を目指すトップチームであれば、当然のことながらライダーも相応の顔ぶれとなる。そうならば、なおさらのことマシンのセッティングはそれぞれがピンポイントとなっていく。どこで折り合いをつけるか。どこまでならば我慢できるのか。チームはライダーの意見を聞き、落としどころを見定めて行く。

鈴鹿サーキットを舞台に繰り広げられるさまざまなドラマ。スタート直前の緊張、アスファルトに照り返される真夏の日差し、ヘッドライトが醸し出す幻想的なシーン、サーキットにいるすべての人が一体となるチェッカーの瞬間。そして、勝者を祝福する花火が打ち上がるとき、“来年もここで会おう”と翌年の鈴鹿8耐がスタートするのだ。



RACE HIGHLIGHT.2

注目ライダーが続々と名乗り!!

モータースポーツシーズン到来と同時に、多くのファンの注目を集めるのが、“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐での、各チームのライダーの布陣だ。そして今年、早くもビッグネームたちが8耐制覇に向けて名乗りを上げた。

まず、スーパーバイク世界選手権を戦うテンケイトHondaのジョナサン・レイの参戦が決定(※8耐参戦チームは未定)。レイは、この8耐を契機にポテンシャルを上げたライダーとして知られており、8耐のタイトルはどうしてもほしいところ。さらに、今年はイギリススーパーバイクを戦う清成龍一も参戦予定(※8耐参戦チームは未定)。清成は2005年と2008年の8耐勝者であり、その2008年以後の参戦となる。そしてもう一人、今年のMotoGP世界選手権に新設されたMoto2クラスを戦う高橋裕紀も出場を予定(※8耐参戦チームは未定)。高橋はこれまでも8耐参戦経験はあるが、納得のゆく戦績を残せていないだけに、世界のトップライダーとしてのプライドを賭けた戦いは、大いに注目される。

また、昨年の優勝チームのヨシムラからは、イギリススーパーバイクを中心に活動する加賀山就臣、SRS-J(鈴鹿サーキットレーシングスクール・ジュニア)一期生として知られる酒井大作、スズキのMotoGPマシン開発を手掛ける青木宣篤の3人。ヨシムラが使用するマシンのスズキは、今年、レース参戦50周年という記念すべき年。ヨシムラのパワーとテクニックが織りなす戦術で、スズキ50周年に華を添えるかに注目だ。

一方、国内にも世界に一步も引けを取らない強豪ライダーがそろっている。F.C.C. TSR Hondaに所属する国内最速ライダー秋吉耕佑、今年の全日本ロードレース開幕戦・筑波でJSB1000初優勝を達成したMuSASHi RT ハルクプロの高橋巧らが、どのような体制で“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐に臨むのかにも注目したい。また、Honda DREAM RT 桜井ホンダに所属する亀谷長純のエントリーも予想されており、例年にも増して激しいバトルが期待される。

予選方式変更。
今年はスーパーポール方式で
世界統一規格の興奮が展開される!!

8時間先のチェッカーを目指すとなると、予選順位はスプリントレースほど重要ではないというのが一般論だ。しかし、スタートダッシュを決めるため、さらにトップライダーとしてのプライドを守るため、ライダーは予選を重要視する。そして今年、その予選方式が大きく変わった。

昨年まではトップ10トライアルとして、計時予選でトップ10に入ったチームの第1および第2ライダーが、一人ずつ1周のタイムアタックを行い、最終グリッドが決定していた。しかし今年は、計時予選上位20チームによるスーパーポール方式がFIMルールによって採用されることになったのだ。

スーパーポール1で20名→16名、スーパーポール2で16名→8名、スーパーポール3で8名によるポールポジション争いとなる。これまでのスペシャル・ステージと違い、ライダーの選択、アタックのタイミング、スーパーポール1&2でのポジション争いなど、決勝レースさながらのチーム戦略と駆け引きが必要となり、新しい見どころが増えそうだ。

7月25日(日)の“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース決勝レースに先がけて、7月23日(金)の計時予選、そして24日(土)のスーパーポールと、これまで以上に目が離せない3日間となる。



2009年の鈴鹿8耐スタート



2009年の公式予選トップ10トライアル



2010 QTEL FIM Endurance World Championship Series, Round 3
The 33rd "Coca-Cola Zero" Suzuka 8hours Endurance Road Race

SUZUKA CIRCUIT
7992 Ino-cho Suzuka-shi, Mie-ken, 510-0295 Japan
Tel 81 59 3781111 Fax 81 59 3784568





▶▶▶▶▶ RACE HIGHLIGHT.3

前哨戦の鈴鹿300km耐久ロードレース

“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐に先がけて行われるのが、6月13日(日)に決勝レースを迎える“Road to 8hours”鈴鹿300km耐久ロードレースだ。

スタートにはル・マン式を採用。ライダーも1チーム2名まで登録可能、さらにレース途中で給油やタイヤ交換が行われ、マシンレギュレーションも鈴鹿8耐と共通性を持たせている。

白熱のレース展開はもちろん見どころの一つだが、鈴鹿8耐を想定した各チームの実戦シミュレーションも見逃せない。本来、堅実な戦略をとるはずのトップチームがアグレッシブな戦略をとることも珍しくない。過去にはマシンの燃料消費の限界を確認するためにガス欠ストップを覚悟に連続走行を続けるなど、全日本選手権などでは見ることのできない予想外の展開が、“Road to 8hours”鈴鹿300km耐久ロードレースの魅力の一つでもあるのだ。

また、レースウィークでは、今年の鈴鹿8耐に参戦するチーム発表会が行われるのが通例で、こちらも高い注目度を集めている。



2009鈴鹿300km耐久ロードレース・表彰台



2009鈴鹿300km耐久ロードレース・鈴鹿8耐参戦発表会に有力チームが勢揃い

Road to SUZUKA 8hours

4/17-18

全日本ロードレース選手権第2戦
鈴鹿2&4レース

6/12-13

“Road to 8hours”
鈴鹿300km耐久ロードレース

6/30-7/1

鈴鹿8耐公開テストデー

7/22-25

“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8耐



2010 QTEL FIM Endurance World Championship Series, Round 3
The 33rd "Coca-Cola Zero" Suzuka 8 hours Endurance Road Race

SUZUKA CIRCUIT
7992 Ino-cho Suzuka-shi, Mie-ken, 510-0295 Japan
Tel 81 59 3781111 Fax 81 59 3784568

